

【事務事業調査】

事務事業名	乳幼児健診・相談事業費		予算科目 コード	会計 - 款 - 項 - 目 - 事業
				001-040102-003-02-02
担当部署	健康福祉課	担当	健康づくり担当	事業の分類
		サブリーダー	田中圭子	

事務事業の概要

	何をどのような方法で実施します(実施しました)か?	どのような成果が現れます(現れました)か?
計画	児の健やかな成長の観察や家族への育児不安の軽減を目的として、4ヶ月・10ヶ月・1歳6ヶ月・3歳の月齢で、医師の診察、発育状況の観察、保健師・栄養士・歯科衛生士・心理相談員による育児相談を行なう、月齢に関係のない育児相談を行なう。学齢期でうまく集団に適應することができない発達障害への対応として、のびのび発達相談によるスクリーニング、集団への適應を促す集団教室を実施する。こどもみらい課・学校と連携し、児の健やかな成長を援助する。	定期的に児や家族を観察することにより、育児不安や養育力不足への早期対応ができる、心身の疾患や発達障害を早期に見出し対応することができ重症化を防ぐことができる。早期に対処することにより、障害を持ちながらも健やかに成長し、社会に適應することができる。
実績	保健センターにて、4ヶ月・10ヶ月・1歳6ヶ月・2歳・3歳の月齢で、医師の診察、発育状況の観察、保健師・栄養士・歯科衛生士・心理相談員による育児相談を行なった。必要に応じて乳幼児相談にてフォローを行った。5歳児ののびのび相談では、児の集団活動の様子を確認し、状況に応じて、集団への適應を促す集団教室や発達相談でフォローを行った。こどもみらい課・学校と連携し、就学に向けての援助を行った。	乳幼児期は疾病の早期発見、成長・発達の観察だけでなく、育児不安等様々な悩みを抱える保護者への支援を行うことができ、保護者の育児不安解消の場となっている。月齢を遡ることに明るく育児を行う様子が見え始める。5歳児ののびのび相談では、スムーズな就学につなげるための児や保護者への支援だけでなく、保育者や教師、学校の発達障害に対する理解を深めることができ、支援の方法を学ぶ機会となっている。就学前に小集団での活動で丁寧に関わることで、就学後のフォローが行いやすくなった事例もあり、学校での特別支援教育の体制整備へつながると感じる。

活動指標

指標	目標値	達成値	特記事項
乳幼児健康診査受診率	100%	97.8%	未受診者のほとんどは医療機関でフォロー中である。訪問や電話等で状況把握しているケースを含めると全対象の把握はできている。

事業費(計画)

細 節	金 額
1 賃金	3,255,000
2 報償費	888,000
3 消耗品	113,000
4 印刷製本費	28,000
5 通信運搬費	144,000
6 委託料	60,000
7 扶助費	640,000
8	
	5,128,000

事業費(当初予算)

細 節	金 額
1 賃金	3,087,000
2 報償費	888,000
3 消耗品	113,000
4 印刷製本費	46,000
5 通信運搬費	144,000
6 委託料	60,000
7 扶助費	640,000
8	
	4,978,000

事業費(実績)

細 節	金 額	特記事項
1 賃金	2,997,706	
2 報償費	700,000	
3 消耗品	112,771	
4 印刷製本費	38,000	
5 通信運搬費	134,098	
6 委託料	54,020	
7 扶助費	529,080	
8		
	4,565,675	

事業経費

		計 画	実 績	特記事項
予 算	当初予算額		4,978,000	
	補正予算額			
	流用額			
	予算現額		4,978,000	
決 算	決算額		4,565,675	
財 源	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	受益者負担金			
	その他の特定財源			
	計	0	0	
	差引(一般財源)	5,128,000	4,565,675	